

おおだて

市立総合病院・市立扇田病院

病院だより

第5号

おおだて病院だよりは、
市民・患者さんと
市立総合病院・市立扇田病院を
つなぐ広報誌です

2011.12

No. 5

発行者：大館市病院事業管理者 佐々木睦男
編集：大館市立総合病院 広報委員会
住所：大館市豊町3-1(総合)
大館市比内町扇田字本道端7-1(扇田)
電話：0186-42-5370(総合) 0186-55-1255(扇田)
URL：<http://www.odate-hp.odate.akita.jp>(総合)
<http://www.oogita-hp.jp>(扇田)

挨拶の大切さ



市立総合病院

院長

たておかく 岡 博

ある朝、職員玄関に入ったら、背筋をぴしっと伸ばした当直明けの警備員が“おはようございます”と職員一人ひとりに挨拶している姿が目に入りました。今までは警備用の小さな窓からの会釈のみでしたから、大変な驚きとともに感動さえ覚え、なにか今日も頑張るぞという思いが自然と湧き出て来るような清々しさを感じました。このことは多くの職員が感じたらしく、当院の接遇などの問題を扱う患者サービス委員会から、親切ポイントが出されたという事を後から聞き「納得」という思いでした。

私にとっての挨拶とは、人と人との出会いの始まりの言葉と考えていましたが、人をこんなにも元気づけてくれることができる挨拶もあるのだと改めて考えさせられました。以前、秋田大学の長谷川教授の言葉を引用して“病院力は人間力であり、人間力は挨拶、笑顔、目線の高さ、共感”と職員に話した事がありますが、まさに挨拶の大切さを痛感した次第です。職員一人ひとりが人として、医療のプロとして市民の皆様これまで以上に良い挨拶ができるようにしたいと思っています。

地域の医療較差について



市立扇田病院

院長

おおもと 大 本 直 樹

地域の医療の状態を表す指標の一つとして、人口10万人当たりの医師数があります。日本の医療サービスは世界一と言われていますが、先進諸国の平均310人に対して、日本は210人と非常に少ない医師数で医療を維持していることが分かります。秋田県は190人と全国平均を更に下回りますが、地域によって大きな較差があります。秋田市は310人と日本全体でもトップクラスの水準ですが、大館、鹿角では150人、北秋田市では105人と秋田県内でも地域によって2倍から3倍もの差があります。しかし、秋田市が医師過剰という訳ではありません。複雑化する医療を維持するには、秋田市内の病院でさえ、まだ医師は不足しているのが実情なのです。

先日、かづの厚生病院循環器科医師の非常勤化が報じられましたが、医師の偏在は益々拡大していて、近い将来に解消する見込みもありません。限られた医療資源を有効に使うためには、市民の皆様のご理解とご協力が必要だと感じています。

DPC病院のはなし

⑤

DPCによって患者さんに「不便」が生じるのか？

DPC委員会 高橋 秀 身(副院長)

DPC制度は「地域の皆さんの健康を守る」という大局的な意味では何ら問題点があるはずはありませんが、患者さん一人ひとりの事情を考えた場合、いくつかわ不便を感じるようになるかもしれません。

① 良い病院は、どんな患者さんでも受け入れて、外来がにぎやかである？

DPC病院になると、今まで以上にちょっとしたケガや風邪引きなど「軽い病気でもどうぞいらしてください。」と言う具合にはいかなくなります。軽い訴えの背後に重大な疾患が隠れている場合も有り得るので、状況に応じて対応する場合もありますが、そのような患者さんばかりが増えて外来が混雑するようなことがあっては、重症な入院患者さんに割くべき時間が奪われてしまいます。すなわち急性期病院としての機能が果たせなくなってしまうのです。「紹介状」を頂きたいとする理由や病気が安定期に入ったら近くの診療所に治療を依頼する理由がそこにあります。

② 良い病院は、たくさん薬をくれる？

日本人は薬がとても好きです。薬箱に薬を山のようにストックしている人も珍しくなくらい。従来、患者さんの側にある「薬をたくさんくれる良い病院」という認識は、患者さんのニーズに応えようとする病院側にも浸透してきました。病院側もたくさん薬を出せば、薬価差益(公定薬価と仕入れ値の差分)が発生し経営上のメリット

もありました。しかし患者さんと病院双方が共有していたこの認識は、国が推進するDPC(定額支払い)制度の普及で、根底から覆されようとしています。必要以上の薬を出すことは、経営を大きく圧迫する原因となってしまいます。

③ 良い病院は、長期間入院させてくれる？

最近の診療報酬改定では、同じ疾患で在院日数が標準より長い病院に対して診療報酬で不利な評価がされてきています。DPC制度ではこのことがさらに厳格に適用されます。本音であろうが建て前であろうが「患者さんのため」という理由で必要以上に入院を長引かせていると、DPC制度下では病院の『持ち出し』になってしまいます。入院し不安を抱える患者さんにとっては、確かに不便に感じられることでしょう。

しかし、DPC制度は患者さんに不便だけを強いる制度ではありません。年々膨らむ医療費は病院経営を行き詰まらせ、やがて直接私たちに大きな不便を強いることになることを、個人の事情を超えて、考えてみましょう。医療施設が限られている当地域にあって、急性期病院を存続させることは自らの地域医療を守ることに通じます。そして毎回述べているように、なによりDPCは最も大事な「医療の透明化と標準化」を押し進めるという側面があり、医療の質を高める有力な手法でもあるのです。(続)



看護部から



JST（実習サポートチーム）委員会は、看護学生の臨床実習をサポートする目的で、平成19年に発足しました。38日間に及ぶ臨床実習指導者講習会を修了した看護師が中心となり、現在12人で活動しています。主な活動内容は、学生指導に携わることほもちろんですが、看護実践者として役割モデルができるスタッフの育成や、学校の教員との連携、受け持ち患者さんの決定などです。また、委員会のメンバーだけでなく、看護部スタッフ全員が学生指導を行うための実習指導マニュアルを作成しました。

このほかにも、実習指導時の疑問、質問へのアドバイスや各部署で起きている問題、新しい情報などを共有する手段としてJSTだよりを発行しています。

私たちは学生が意欲的に実習できるように取り組んでいます。が、今一番頭を悩ませているのが、受け持ち患者さんの決定です。入院された患者さんが、学生が自分の担当になることに不安を感じることもあると思いますが、学生は、直接患者さんのケアに関わることで、教科書に書かれたことをより具体的に学ぶことができます。安全・安楽なケアが行われ

るよう、指導する側も十分配慮していただきますので、学生が担当することになってもご安心ください。私たち委員会のメンバーは、学生に対し患者さんに信頼される看護師になってもらいたいという「ねがい」を全員が持っています。この「ねがい」を持ち続け、指導する側も、される側も共に育つ「共育」をモットーに、これからも学生と一緒に成長していきたいと思っています。



「患者さんの声」より

当院に寄せられたご意見を、紹介していきます。



患者さんの声

私は院内処方薬をもらっていますが、遅いです。もう少し早くなりませんか？

病院から

ご意見ありがとうございます。

当院は、国が方針として掲げる「医薬分業」の推進のため、外来のお薬は院外処方とし、保険調剤薬局での調剤をお願いしています。

また当院は、「急性期に対応するための二次医療機関と位置づけられている」（秋田県医療計画）こともあり、薬剤科の体制は入院患者さんや救急患者さん中心の体制となっています。

外来患者さんについては、特殊な薬剤などのかたを対象として例外的に院内処方としていますが、さきほどご説明した体制や特殊な薬剤という事情などから、お渡しが遅くなる場合もありますので、ご理解とご協力をお願いします。

患者さんの声

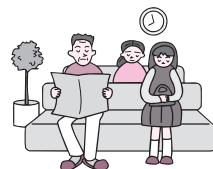
診察券を受け付けてもらうために早く行きたいのですが、なぜ午前4時になるまで病院には入れないのですか？

病院から

ご意見ありがとうございます。

当院では、施設管理や防犯上の理由から、消灯時間の午後9時から翌朝午前7時30分までは、救急患者さんや重篤な患者さんのご家族以外の立ち入りを「原則として」禁止しています。

再来受付のため、早く並びたいと要望される方もいらっしゃいますが、先に述べた理由のため、午前4時からと定めていますので、ご理解とご協力をお願いします。



紹介 します

第三内科外来



第三内科は糖尿病や内分泌疾患、脂質異常症、神経内科疾患を主に診察しています。外来の患者数は内科の中では最も多く午後5時まで診察を行うことがあります。常勤医は八代均（糖尿病専門医・指導医）、池島進（糖尿病専門医・感染症専門医）、川原昌之の3人で診察を行っています。月曜日と水曜日には甲状腺外来として弘前大学糖尿病・内分泌内科の2人の専門医が診察し、木曜日には禁煙外来も行っています。

スタッフとして、日本糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師をはじめとして、総勢9人で外来業務を行っています。そのほか、栄養士による糖尿病の食事療法を常時行うとともに、糖尿病診療にとって重要な患者教育の場となる、現在休止中の夜間外来糖尿病教室を来年中に再開させる予定です。

県北地区で糖尿病の専門医は八代と池島だけで、県北地区の糖尿病診療が手薄な状況です。糖尿病の診療は医師だけでなく看護師や栄養士などのスタッフが協力して行わなければならない、平成12年から医療スタッフのための日本糖尿病療養指導士制度が開始され、当院でその資格を取得しているスタッフ10人（うち2人は秋田県糖尿病療養指導士）が、院内外での糖尿病療養指導で活躍しています。県北地区でその資格を取れる施設は当院だけですので、糖尿病診療で当科の役割が重要です。

人間の主要エネルギー源はブドウ糖で、ブドウ糖が正常に代謝されないと人間は生きていけません。他の疾患で手術や治療がうまくいっても糖代謝が正常にならないと回復しませんので、血糖管理はすべての疾患治療の基本となります。また糖尿病日常診療で血糖値とHbA1c(*)を測定していますが、単純なデータでそれを規定する因子がたくさんあります。生活スタイルや体調、心配事による精神的ストレス、不測の出来事等々で微妙に血糖値が変動します。糖尿病の診療は患者さんの日常生活や人生を考えながら行っています。

(*)HbA1c（ハモグロビン・エイワンシー）…血液内のブドウ糖は体内の蛋白と結合し、赤血球内の蛋白であるハモグロビンと結合したのが「ハモグロビン・エイワンシー」です。

お薬のいろんな疑問にお答えします。



薬のQ&A

第4回は骨粗鬆症です。

骨粗鬆症の治療薬について

～ビスホスホネート系薬剤～

骨粗鬆症の治療に近年、ビスホスホネート系薬剤が多く用いられています。この薬は服用に際していくつかの注意が必要です。

①毎日服用するタイプと間隔をあけて服用するタイプがあります。

さらに間隔をあけるタイプには、1週間に1回服用するタイプと4週間に1回服用するタイプがあります。ご自身の処方された薬がどのタイプか主治医や薬剤師から説明を受けてください。

②食後に飲んででも効き目がありません。

この薬は空腹時に服用しなければ吸収されず効果が現れません。牛乳やカルシウム、マグネシウムを含むミネラルウォーターなどは同時に服用できませんが、30分以上時間をずらすと服用できます。

③服用後、30分は横にならないでください。

コップ一杯の水で服用し、30分は体を横にししないでください。横になることで薬が食道に留まり炎症を起こすことがあります。

院内活動報告

第4回

感染制御室

感染制御室は、病院での感染制御に関する業務を担当しています。専従者はいませんが、感染症専門医（ICD）2人が兼任で所属し、呼吸器内科医1人、細菌検査技師2人、薬剤師2人、看護師長1人、感染管理認定看護師（ICN）1人、事務2人の計11人で構成する感染制御チーム（ICT）として、患者さんや職員、病院長など当院に関わるすべての人を対象に、院内での感染症の発生の早期発見と拡大阻止、耐性菌対策としての抗菌薬の適正使用の監視活動を行っています。そのために月1回ICTによる院内ラウンドとミーティングを行っています。ラウンドでは院内各部署の医療内容確認や感染予防策の確認、ミーティングでは新規耐性菌検出例や血液培養陽性例、長期抗菌薬投与例などの症例検討を行っています。これらの活動結果は、感染制御室から院内感染対策委員会での討議を経て院内各部署へフィードバックしています。これらの活動のほか、ICD、ICNは、主治医や担当看護師から患者さんへの感染症治療やケアに関わる相談を受けています。また麻疹やノロ胃腸炎、新型インフルエンザなどの地域流行感染症や地域内耐性菌対策の院外活動も積極的に行っています。

食事と② 病気予防

糖尿病

糖尿病食は健康食です。
2回目は「郷土料理 切りたんぼ」



食事のポイント

病気の予防には、日々の食生活が大切です。病気ごとの食事からみた対策について、連載でお知らせしています。1回目から3回目までは糖尿病に対応する献立を紹介します。

献立 1日1,600kcal(1食分)

- *切りたんぼ 小1.5本
- *お刺し身
- *酢の物
- *フルーツ
- *プレーンヨーグルト

・エネルギー	600kcal
・たんぱく質	30g
・脂質	9g
・塩分	2.7g

アドバイス

- 1 切りたんぼ 小1本は、ごはん軽く1杯(100g)に相当します。
自分のエネルギーに合わせて取り過ぎないようにしましょう。
- 2 主食を取り過ぎないコツは、主菜と副菜をそろえて食べることです。
- 3 最初に野菜料理からゆっくりよく噛んで食べるようにしましょう。

健康・医療講演会開催

10月29日(土)に弘前大学大学院医学研究科主催の、「健康・医療講演会」が大館市を会場に開催されました。

これは、総合病院と弘前大学が平成21年に専門医養成ネットワークに関する協定を締結するなど、連携の強化を図ってきたことから、今まで青森県内のみで開催していた同講演会を、初めて県外で開催したものです。

講演会では、高齢化社会を迎えて多くのかたが関心のある、「更年期障害」と「腰痛」をテーマに、弘前大学医学部産科婦人科 水沼英樹教授と総合病院整形外科 横山徹部長が講演し、約100人の市民が熱心に受講されました。



新任医師紹介



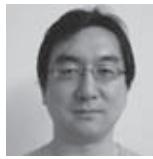
よこやま ひろあき
横山 公章

第一内科
平成23年10月～
市民の皆様のハート(心臓)を守らせていただきます。



たむら りょうすけ
田村 良介

産婦人科
平成23年10月～
10月から大館で勤務することとなりました。よろしくお願ひします。



しらすき たかし
白崎 隆

耳鼻咽喉科
平成23年11月～
できるだけお待たせしない外来、じっくり説明する入院を心掛け、大館の医療に貢献できるよう精進いたします。



いまいし けんご
今西 賢悟

泌尿器科
平成23年11月～
地域医療の為、頑張りたいと思います。宜しくお願ひします。

扇田病院です!

＋ 栄 養 科 ＋



栄養科スタッフ



食事相談



嚥下食

栄養科は、管理栄養士と栄養士、委託調理員で毎日力を合わせて、入院患者さんが、食事を美味しく食べ、栄養状態が良好になりますように、「安心・安全で、心がなごむような食事」の提供に努めています。

～ 特色を紹介します ～

食事申し込みの締め切り時間を設けず、入院患者さんに随時対応できるようにしています。また、地域の食材や慣れ親しんだ味を大切に献立を取り入れています。

当院では、ADL(*1)低下した患者さんが多く、嚥むことや飲み込む動作がしづらくなってきたかたのためには、見た目にも美しく、色合いや形、味付けに気遣った食事(嚥下(*2)食)に力を入れています。

「嚥下：段階食 説明書」を作り、患者さんの嚥下状況に合わせた食事の情報をスタッフ間で共有し、退院時の食事相談にも利用しています。

さらに、病棟看護師や各委員会等との連携を図り、患者さんにできるだけ口から食べて頂く努力をしています。

一方、経管栄養(けいかん)の患者さんも大変増えています。経管栄養とは、口から食べる事がどうしても難しく、濃厚流動食という総合栄養食品を鼻や胃ろうから摂取する方法です。逆流、下痢しやすい患者さんには、固形濃厚流動食を手作りにて提供しています。

栄養科スタッフは、明るい笑顔で丁寧な対応を心掛けています。少数精鋭で頑張っていますので、これからも宜しくお願ひします。

ADL(*1)…食事、排泄、着脱衣、入浴、移動、寝起きなど、
日常生活を送るために必要な基本動作
嚥下(*2)…食物を認識して口に取り込むことに始まり、胃
に至るまでの一連の過程

扇田病院発



訪問看護の 推進と地域連携

秋田県看護協会の出前研修会が9月16日扇田病院で開催されました。地域の看護師や介護支援専門員など約90人が参加し、基調講演と事例紹介の後に意見交換が行われました。

事例紹介では、「退院調整における地域連携について」と題し、4人が事例発表を行いました。

その中で、当院の地域連携室相談員は、現在の地域連携のシステムや本人と家族の希望があれば「やれる」という前提で意欲的に在宅介護を進めている現状を報告しました。

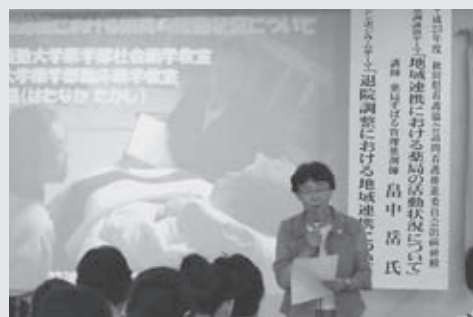
また、病棟看護師は、介護力は低いけれども在宅で看たいという

家族の気持ちに寄り添い、支援した事例について報告しました。

意見交換では、日頃病院を訪問している介護支援専門員から、地域連携室との更なるスムーズな関係を求める意見やアセスメントの際、患者のADL(日常生活動作)が低下している原因などについて、医療の専門的立場から情報が欲しいという要望が出されました。

今後、更に高齢化が進むなか、地域連携を深めることは非常に重要になってきます。

今回の研修会は、地域連携担当者の顔と顔が見える関係を構築する一歩となり大変有意義な機会となりました。



外来診療のご案内

医師の都合や手術などのため、休診や受付時間の変更をする場合があります。

～総合病院～

受付時間	初診 午前 8:30～11:00	再来 午前 7:30～11:00
-------------	-------------------------	-------------------------

特段の記載がない場合は、上記の受付時間になります。

科名	曜日	月	火	水	木	金	備考
第一内科	新患	10:30まで	10:30まで	10:00まで	10:30まで	10:30まで	呼吸器の新患は月・火・金。 新患は原則として紹介状が必要です。
	再来			休診			
第二内科							新患は原則として紹介状が必要です。
第三内科			甲状腺 外来		甲状腺 外来	10:00まで	10:00まで
小児科							
神経精神科	新患				受付なし		
	再来						
外科							
産婦人科							
眼科		10:00まで	9:30まで	10:00まで	9:30まで	9:30まで	新患は原則として紹介状が必要です。
耳鼻咽喉科							
整形外科		10:00まで					専門外来は予約制。
泌尿器科		予約のみ					
皮膚科				休診	休診		
脳神経外科	新患	10:30まで					新患は原則として紹介状が必要です。
	再来						
放射線科		予約のみ	休診	予約のみ		休診	新患は木のみで紹介状が必要です。
歯科口腔外科							再来は予約制。

※新患は出来るだけ紹介状の持参をお願いしています。

～扇田病院～

科名	曜日	月	火	水	木	金	備考
内科	午前	8:30～11:00					
	午後	急患のみ					
外科	午前	8:30～11:00					
	午後	2:00～ 3:30					
整形外科	午前	休診	休診	8:30～11:00	休診	8:30～11:00 (新患・予約のみ)	
耳鼻科	午前	休診	8:30～11:00	休診	休診	休診	
眼科	午前	8:30～11:00					
	午後	検査のかたのみ					
夕やけ診療(内科)	午後	5:00～7:00	休診	5:00～7:00	休診	5:00～7:00	

総合病院・扇田病院にお越しの際は 公共交通機関の利用を!

冬季間は、除雪で寄せた雪などのため駐車場が狭くなります。

混雑を避けるため、なるべく公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ

総合病院総務課 ☎42-5370
扇田病院総務係 ☎55-1255

★ ★ ★ ★ ★ 病院ボランティア 募集中

総合病院では、引き続き「病院ボランティア」を募集しています。内容は、①外来の案内、②再来受付機の操作案内、③車椅子の介助などです。

患者さんが快適に受診できるように、お手伝いをしてみませんか?

お申し込み、お問い合わせは、
相談支援センター(☎42-5370 内線5245 担当 齊藤)まで。ご連絡をお待ちしています。

立ち寄り 美術館

「もうこの顔、米代川より臨む扇田病院・秋の彩りに映える清々（しんげん）」という題で、市内釈迦内の菅原修さんより写真の提供がありました。



病院だよりでは、市立病院にまつわる写真、絵画などの作品を市民の皆さんから募集し、掲載したいと思います。
応募方法は、作品の写真（1判）に住所、氏名、題名を添えて総合病院企画課宛に郵送ください。

来年4月から、総合病院の入院医療費の算出が「DPC方式」に変わる予定です。

いままでの計算方法は、診療行為毎に料金を計算する「出来高払方式」でした。来年4月からは、厚労省が定める、傷病名や手術、処置の内容に応じて分類された「診断群分類：DPC」に基づいて、それぞれの分類毎に定められた1日当たりの定額の医療費を基本として計算する「DPC方式」になる予定です。

*DPC方式で包括されるのは、入院基本料や検査、注射、処置、画像診断（レントゲン）などですが、これらの一部や手術料等については、従来通り出来高で計算されますので、入院費用は包括分と出来高を合わせたものになります。

従来の計算方法 (出来高払方式)

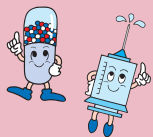
- 手術・リハビリなど
- 入院基本料
- 検査・レントゲン
- 投薬
- 処置

新しい計算方法 (DPC方式)

- 手術・リハビリなど
- 1日当りの入院点数
入院基本料、検査
レントゲン、投薬
処置を含む



《DPC方式の対象となるかたについて》



●一般病棟に入院されるかたで、病名が包括対象となる診断群分類に該当する場合に、「DPC方式」の対象となります。

しかし、次のかたは「出来高払方式」となります。

- ① 労災保険や自賠責保険、正常分娩などの健康保険を使わない自費診療のかた
- ② 病名が包括対象となる診断群分類に該当しないかた
- ③ 入院期間が定められた日数を超過したかた
- ④ 入院後24時間以内に亡くなられたかた
- ⑤ 生後7日以内に亡くなられた新生児
- ⑥ 結核病棟、精神科、歯科へ入院されるかた

編集後記

大館シャイニングストリート実行委員会主催の第5回「大館シャイニングストリートプロジェクト」がもうすぐ始まり、今年も総合病院周辺がキラキラに輝きます。表紙写真は以前のもので、市内豊町の富樫弘さんに提供していただきました。ありがとうございます。病院の窓明かりもキラキラにお手伝いいたしますので、ぜひお立ち寄り下さい。

激動の一年が終わろうとしています。皆様の心に明るい光が灯りますように……
よいお年をお迎え下さい。

編集委員長 蒔苗 公利